

概説：ビザンツ帝国

2022年（世界創造より7531年）10月22日

コンスタンティノープルからの使者

1. ビザンツ帝国とは

ものすごくざっくり言うと、中世におけるローマ帝国の生き残り

- ✓ 395年の「ローマ帝国の東西分割」の東側（いわゆる「東ローマ帝国」）が1453年5月29日にオスマン帝国に滅ぼされるまで存続
- ✓ 帝国住民自身は自国を「ローマ人の帝国」「ローマ人の土地（ロマニア）」と呼んでいた
- ✓ 法制度上では古代のローマ法が引き続き有効（ただし時代の変化に合わせて解釈を変えて運用している部分あり）
- ✓ 古典ギリシャ文化の尊重
- ✓ 食文化や宮中の宴会の習慣（寝そべて食事をする古代ローマ風の宴会など）

① なぜ「ビザンツ帝国」「ビザンティン帝国」などと呼ばれるのか

(ア) 長い歴史の間に古代ローマ帝国との差異が生じる

- 領域：330年にコンスタンティヌス1世が開いた街首都コンスタンティノープル（ビュザンティオン 現在のイスタンブル）を中枢とする、アナトリア半島・バル



1025年のビザンツ帝国 Wiki media Commons より

カン半島一帯。イタリア半島の一部を領有しているが、6-7世紀以外は古代ローマ帝国の本拠地ローマ市を支配していない。

- 政治：皇帝は元老院が市民・元老院・軍隊が正統性を与える、という古代からの認識は維持され、古代のローマ皇帝同様必ずしも世襲されとは限らなかったが、古代より専制君主化 → 皇帝は「地上における神の代理人」

- 文化：元々古代ローマ以前からギリシャ語が優勢だった地域だけが残った結果、使用言語がギリシャ語化。また、古代に比べキリスト教が普及したためキリスト教（正教会）の影響が強い。

20 世紀のビザンツ史学者ゲオルク・オストロゴルスキーは「キリスト教化したギリシャ人のローマ帝国」と評している。

(イ) 西欧側の偏見

- 西欧側が自らの作った「ローマ帝国」（通常「神聖ローマ帝国」などと呼ばれる）を正統な「ローマ帝国」とし、本来のローマ帝国の残存部の正統性を認めないため帝国滅亡後に別の呼び方をした（本来のローマ帝国は 1453 年に滅亡したため、残ったもの勝ち）

これらの理由から、「古代のローマ帝国とは違う」というニュアンスを込めて、古代ギリシャ時代の名称ビュザンティオン(Βυζαντιόν)（ラテン語だとビザンティウム(Byzantium)）にちなんで「ビザンツ帝国」（ドイツ語の Byzanz 由来）「ビザンティン帝国」（英語の Byzantine 由来）と呼ばれる。

余談だが日本では史学系は「ビザンツ」を、美術・建築系は「ビザンティン」使用することが多い。

「ビザンツ」「ビザンティン」には西欧の偏見が反映されているとして、「中世ローマ帝国」（一橋大学系）や当時の呼称を反映した「ロマニア帝国」（一部の海外研究者）という呼称もある。

2. ビザンツ帝国の特徴

■ 驚異的な生存力

- 周囲を異民族に囲まれた状態で 1000 年にわたって存続
- 幾度も敵に首都囲まれたが撃退、1204 年の第 4 回十字軍に首都を奪われるが約 60 年後に奪回
- 「我々はローマ帝国である」という強固なイデオロギーは保ちつつも柔軟に変化する政治体制

■ 中華的ともいえる周辺民族に対する意識

- ローマ帝国＝文明圏、周囲の異民族は蛮族（バルバロイ）
- ただし、都市文明を築いた隣国イスラーム帝国とはお互いに争いつつも一定の敬意

■ キリスト教帝国

- 皇帝は「神の代理人」「キリストに似たる人」
- 皇帝がコンスタンティノープル総主教などの高位聖職者の人事や教義に介入
- ただし教会側も皇帝の言いなりになりっぱなしではない
- ☆ 皇帝に対する反乱がおきた際に総主教の動きが反乱の帰趨に影響を与えたケースや幼

帝の摂政を総主教が務めた例など

- 受験参考書などでは「皇帝教皇主義」と呼ばれることが多いが、これは誤り
 - ◇ 皇帝は聖職者ではなく、教会の儀式を執り行うこともない
 - ◇ 儀礼上皇帝と総主教は互いに敬意を表する
- 皇帝の権力の強さと地位の不安定さ
 - 前述のように皇帝は「神の代理人」とされ、強い権力を持っていた
 - その一方で、皇帝が反乱で帝位を追われたり、暗殺されたりするケースが多い
 - 不安定な体制に思えるが、支配階層の新陳代謝につながっていった
 - ◇ アルメニア系農民の子から皇帝にまで上り詰めた、マケドニア王朝初代皇帝バシレイオス1世（在位：867年 - 886年）
 - 12世紀のコムネノス朝以降になると、特定の家門が権力を握るようになり、新陳代謝は行われなくなる
- 「消極的平和主義」「戦わずして勝つ」
 - 6世紀のユスティニアヌス1世（在位：527-565）は古代の版図を回復すべく積極的な軍事展開を行ったが国力が消耗し、その後の100年の間に多くの領土を失陥
 - 戦力の消耗を避けるため、なるべく自らの手を下さないようになる
 - 「夷を以て夷を制す」→ 異民族同士を争わせる
 - 「戦わずして勝つ」→ 外交手段や調略による敵方の内部分裂を誘う
 - 文化や富といったソフトパワーを見せつける
 - ◇ 儀礼の重視（皇帝から役人への給与支払いさえ儀式化）
 - だからと言って軍事軽視ではない
 - ◇ 皇帝直属の常備軍（タグマ）と艦隊、地方軍（テマ）の存在
 - ◇ コンスタンティノープルの三重城壁
 - ◇ ロストテクノロジーな火炎放射器「ギリシャの火」（資料1）
 - ◇ 9世紀の宮廷高官の序列表を見ると、文官よりタグマやテマを率いる武官の序列が高い（資料2）
- 当時の西欧諸国に比べると整った法制度・行政組織（資料3）
 - 行政組織が整っているがゆえに「手続きが煩雑」「官僚的」という評価をされる（英語の”byzantine”は「理解しにくい、分かりにくい、複雑」という意味もある）。
- 古典趣味の文化
 - 古代ギリシャ語の文法テキストの使用
 - 知識人はホメロスの詩を暗唱できるのが常識
 - 周囲の異民族について記述する際に、古代に該当地域にいた民族名を使う
 - ◇ 「スキタイ人」（ルーシ人やペチェネグ人などの北方の民族）
 - ◇ 「ペルシャ人」（トルコ人）
 - 古代ギリシャ・ローマの文献の保持、比較的高い知的水準
 - “私、すなわちアレクシオスとイリニ両陛下の娘アンナは、緋の産室で生まれ育てられ、読み書きは言うまでもなく、完璧に正しいギリシア語を書けるよう精進し、修辞学をなお

ざりにせず、アリストテレスの諸学とプラトンの対話作品を精読し、学問の四学科で知性を磨いたものである”（アンナ・コムネナ（相野洋三訳）『アレクシアス』序文）

- ◇ アンナは皇帝の第一皇女という特別な立場ではあるが、女性でも古典ギリシャの哲学者の書いたものを読み、歴史書を記述することができるだけの知的水準
- ◇ 首都市民レベルでは日本流にいう「読み書き算盤」程度の教育は受けていた

参考文献

- 井上浩一、『ビザンツ 文明の継承と変容』，京都大学学術出版会，2009.
- 井上浩一、栗生沢猛夫，『世界の歴史 11 ビザンツとスラヴ』，中央公論新社，2009(1998).
- 井上浩一，『生き残った帝国ビザンティン』，講談社，2008（1990）.
- ミシェル・カプラン，『黄金のビザンティン帝国』，井上浩一（日本語版監修），編，創元社，1993.
- 根津由喜夫，『ビザンツの国家と社会』，山川出版社，2008.

話者紹介

コンスタンティノーブルからの使者

『ビザンティン帝国同好会』管理人

2000年明治大学政治経済学部政治学科卒。在学中の1999年9月、「ビザンティン関連の専門サイトが無い」という理由で『ビザンティン帝国同好会』を開設。開設後しばらくして井上浩一先生の目に留まるといふ幸運に恵まれる。

以後、一般社会人（経理担当の会社員）として日々を送りながら、サイトの更新をしたりしなかったり。2009年に関西ビザンツ史研究会に参加以降、関西の研究者の先生方との交流が始まる。

2012年秋から日本ビザンツ学会所属。2017年頃から音食紀行・遠藤さんに「ビザンツやりましょう」とそそのかし続けて現在に至る。

Web <https://www.byzantine-club-jp.org>



Twitter @Byzantine_Club

資料編

(資料1)「ギリシャの火」(『スキュリツェス年代記』挿絵入り写本より)



(資料2)「フィロテオス文書」(899年)記載の官職表(井上浩一『ビザンツ帝国』P128-P130より)

序列	職務	序列	職務
1	バシレオパートル(皇帝の顧問官)	31	テマーケルソン(クリミア半島)長官
2	ライクトール(元老院議長)	32	財務長官
3	総主教顧問官	33	税務長官
4	テマーアナトリコン(小アジア)長官	34	司法長官
5	スコライ軍団(中央軍)司令長官	35	軍隊財務長官
6	テマーアルメニアコン(小アジア)長官	36	宮殿護衛長官
7	テマートラケシオン(小アジア)長官	37	運輸・外務長官
8	テマーオブシキオン(小アジア)長官	38	首都海軍司令長官
9	テマーブーケラリオン(小アジア)長官	39	皇帝親衛隊長官
10	テマーカッパドキア(小アジア)長官	40	御料牧地管理長官
11	テマーカルシアノン(小アジア)長官	41	ヒカナトス軍団(中央軍)司令長官
12	テマーコロネイア(小アジア)長官	42	スーメロス監獄長官
13	テマーパフラゴニア(小アジア)長官	43	テマーオブティマトン(小アジア)長官
14	テマートラキア(バルカン)長官	44	城壁監獄長官
15	テマーマケドニア(バルカン)長官	45	国庫文書局長官
16	テマーカルディア(小アジア)長官	46	国家財産収蔵庫管理長官(衣服)
17	エクスクービテース軍団(中央軍)司令長官	47	皇帝文書確認官、祐筆
18	コンスタンティノープル市総督、司法	48	馬丁長官

序列	職務	序列	職務
19	テマ-ペロポネソス（バルカン）長官	49	尚書局長官
20	テマ-ニコポリス（バルカン）長官	50	各テーマの臨時長官
21	テマ-キュピライトーン（海）長官	51	馬屋長官
22	テマ-ヘラス（バルカン）長官	52	国家財産収蔵庫管理長官（貴金属）
23	テマ-シチリア長官	53	皇帝領管理長官
24	テマ-ストリュモン（バルカン）長官	54	マンガナ所領管理長官
25	テマ-ケファレーニア（バルカン）長官	55	請願・上訴管理局長官
26	テマ-テサロニカ（バルカン）長官	56	孤児院管理長官
27	テマ-デュラキオン（バルカン）長官	57	「青党」長官（デーモス長？）
28	テマ-サモス（海）長官	58	「緑党」長官（デーモス長？）
29	テマ-エーゲ海諸島長官	59	儀式長官
30	テマ-ダルマティア（バルカン）長官	60	皇帝親衛隊長

（資料3）9世紀の官僚機構図（井上浩一／栗生沢猛夫「ビザンツとスラヴ」＜中央公論社＞p67を基に作成）

